

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和2年11月19日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- ・肉質に関して、栄養蓄積状態の指標となるグリコーゲン含量は、先月に比較して低下し、健康とされる目安の3%を下回る地区が多かった。
- ・貝柱の赤変個体は確認されず、赤変度を示すa値は低かった。
- ・昨年の大量へい死時にみられた外套膜の萎縮は確認されなかったが、先月に比較して出現率は低下しているものの、引き続き、北部・中部・南部全ての海域で、貝殻内面真珠層の褐変が確認された。
- ・水温は、4月以降平年値と比較して1℃以上低い状態が継続していたが、8月末の急潮流入後は平年並みに戻り、その後10月以降平年値よりやや高めで推移している。
- ・真珠層の褐変が確認されており、グリコーゲン含量が低下していることから、引き続き貝の管理には注意を要する。

2 調査結果一覧

漁場*1	貝の種類	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体数	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	3.7(2.6)	0.0(1.0)	0	30% [40]
中部①	日中交雑貝	1.6(1.8)	0.0(0.8)	0	10% [10]
中部②	日中交雑貝	1.5(2.1)	0.2(1.4)	0	7% [20]
南部	日本貝	2.2(3.9)	-0.4(0.2)	0	5% [0]
南部	日中交雑貝	2.2(4.3)	-0.5(0.4)	0	0% [5]
平均値		2.2(2.9)	-0.2(0.8)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の値、[] 内は前月の値

3 調査方法

- ・5月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・愛媛県漁業協同組合宇和島事業部が、調査日2日前を目処に上記漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝（満2歳）をサンプルとした。

4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量 (%)：アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a 値：閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。